



にこにこ通信 3号では、窓口でご質問の多い高砂市ファミリーサポートセンターの取材に行ってきました♪ みなさんの子育てを応援する情報を発信していきたいと思います。

普段こんな事はありませんか？

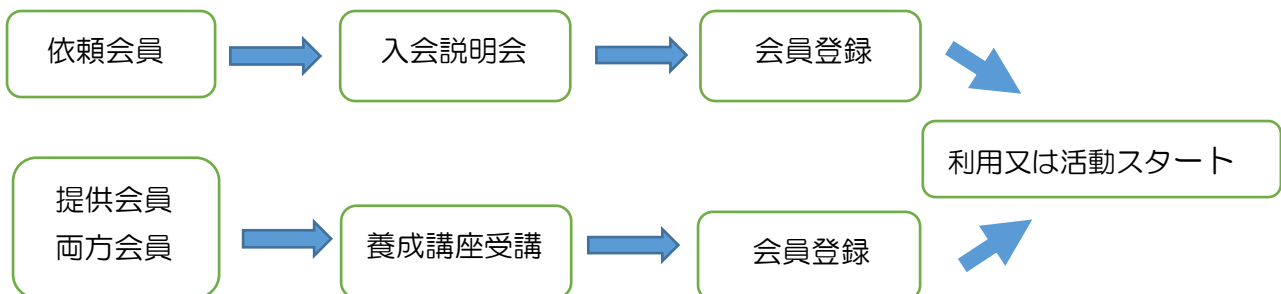
- お仕事で幼稚園や保育園、こども園、学童のお迎えが間に合わない
- 急な用事の時に家に子ども1人で留守番させるのはちょっと不安
- 保護者の急病や急用の時子どもを預かって欲しいけど、実家が遠くて頼めない
- 習い事をさせたいけど、仕事があるので送迎が難しい
- 兄弟の学校行事に下の子どもを連れて行きにくい
- リフレッシュしたい 等

このような時にファミリーサポートセンターは、子育ての強い味方です。

まずは、高砂市ユアアイ福祉交流センター内にあるファミリーサポートセンターに会員登録をします。子育ての援助を必要とする人（依頼会員）と子育ての援助を行いたい人（提供会員）が会員となり、会員同士がお互いに助け合いながら地域の中で子育ての相互援助活動を行います。

現在、高砂市の会員数は、依頼会員639名、提供会員100名、両方会員42名、計781名が登録されています。（令和元年5月末現在）入会説明会は年に4回（5月・10月・12月・3月）土曜日に開催されているそうです。

#### ★ 入会の流れ ★



ファミリーサポートセンターを利用したことのない方の中には、どんなサポートが受けられるの？どこで、どんな人が預かってくれるの？どんな事をして過ごすの？など細かい所まで聞きたいという方もたくさんいらっしゃると思います。でもご安心ください。利用の前にはファミリーサポートセンターのアドバイザーさんとの面談があり、依頼会員さんの希望や不安な事などを相談できます。そして、利用開始までには依頼会員さんと提供会員さんの事前打ち合わせを行うのでお互いに安心して利用・活動を開始することが出来ます。このようにファミリーサポートセンターは依頼会員さんのニーズにきめ細かく対応されています。また、大切なお子さんをお預かりする提供会員さんの中には、子育て経験のある方が多く、事前に面接を行いセンター主催の養成講座を受講されています。実際に利用した依頼会員さんからは、「子育てのことを相談できてスッキリした」「もっと早く頼めば良かった」「予定外の残業が入った時にお迎えに行ってもらえてとても助かりました」等の声があるそうです。



提供会員さんからは、「お子さんの成長に関わる事が出来て、嬉しいです」「サポートさせて頂いたお子さんと近所で出会った時に、「こんにちは」と声をかけてくれた時は感慨深いものがあります」等。ファミリーサポートの活動を通じて地域の人との交流が深められるのも素敵ですね。

【お母さんの笑顔はお子さんの心の栄養です。疲れているなと思ったら、ファミリーサポートを利用してくださいね。】とアドバイザーさん。皆さんも是非、気軽にご利用してみてくださいはどうか。備えあれば憂いなし！ですね。

## ◆おもちつき◆

にこにこ通信 2 号に掲載した長尾楽笑村の田植え行事に続いて、今回は、認定こども園真浄寺きくなみ保育園で行われた人気行事の1つ「おもちつき」を紹介したいと思います。

田植え→かかし作り→稲刈り→もちつき→しめ縄づくりと食育の一環で一年を通して子どもたちは様々な体験をします。



園庭に入るとセイロから白い蒸気があがっています。栄養士さんが蓋を開けて中を見せてくれると、お米のいい匂いが漂ってきました。蒸気をつまめようと、子ども達が手を伸ばす様子がとても可愛かったです。「きなこでたべたいー」「あんこでたべる」「ぼくは、ずんだかな」という渋い発言も(笑)おもちは、おやつにも食事にもなりバリエーション豊富ですね。



蒸しがあがったあつあつのもち米を臼に入れると、いよいよおもちつきのはじまりです。わくわくしている子どもたちの前にぼっくりんが登場しました。

「わあ〜!」「ぼっくりん♡」とみんな手を振って大喜びです。子どもたちが見守る中、ぼっくりんが杵を持っておもちをつき、楽笑村の方が慣れた手つきでひっくり返します。「ぼっくりんがんばれー!」と子どもたちから声援が出ました。

「いいおとする」「(杵が)ハンマーみたい!」「ぼっくりん、きをつけて」など、あちこちから聞こえてきました。ペタンペタン皆の声援にこたえて頑張ってくれたぼっくりんでした♪

さて、ぼっくりんの次は子どもたちです。子供用の小さな杵を使用し、2人1組で体験します。以上児さんは、おもちの弾力に負けず頭からふりかざして、未満児さんは杵の重さにフラフラよろけながらも一生懸命にこにこ楽しく頑張っていました。

もち米のつぶがどンドンつぶれておもちの状態に変化していく様子を一緒に観察しました。つきあがったおもちも、もち切り機に入れてくるくる回すと手のひらサイズに切れて出てきます。子どもたちはかわいい手のひらに乗せてころころと丸めていきます。ひたすら1つのおもちをころころ丸めている子や、もちとり粉でエプロンと手が真っ白になって笑いあっている子どもたちの姿もみられました。「何個食べる?」と聞くと「160個!」と男の子。たくましいですね。





園長先生にお話を聞きました。

「食育の一環で田植えからおもちつきまで、楽笑村の方々にお世話になりながら毎年参加しています。3歳児から参加するので5歳児はこの度3回目のおもちつきです。おもちを丸めるのも年々上手になります。また、丸めるという作業は、手の感覚を育て脳の発達に良いので、小麦粉粘土、粘土あそび、お砂場でどろ団子作りと、普段の遊びでもどんどん取り入れています。出来立てのおもちは感触が気持ちいいので子どもたちは飽きずにずうっと丸めていますよ」とお話してくださいました。おもちは、3時のおやつにぜんざいでいただくそうです。

年長さんが、段取り良く自然と役割分担をしている姿はとても立派で印象的でした。そして、以上児さんが園庭でおもちつきをしている様子をお部屋から興味津々で見ている未満児さん。真浄寺きくなみ保育園のおもちつきは、ここから始まっているのですね。

おもちつきは、日本の伝統を体験することができる貴重な行事です。昔のように家庭でもちつきをする機会も減ってきたので、子どもたちと一緒に私たちも貴重な経験をさせて頂きました。

